

仙台市宮城野中2年 二本柳花音さん

震災の教訓発信したい



中学生対象の「かほく防災記者」(河北新報社主催)第2期の研修が5月に始まった。宮城県内の9人が自分や家族の被災体験、備えの課題についてまとめたリポートを、自然災害から身を守るポイントを描いたイラストとともに、5回続きで紹介する。

◇
かほく防災記者研修は、中学生が災害と防災を学び、発信する事業です。研修生は家族と一緒に家庭の備えにも取り組みます。

東日本大震災が発生したときはまだ2歳だったのですが、どんな出来事があったのか覚えていない。研修をきっかけに、当時のことを母に聞いた。

仙台市宮城野区の自宅でケーキを食べていたときに、急に大きな揺れに襲われ、とても驚いたという。

テレビが倒れて壊れたほか、家中の物が散乱したため、近くの宮城野中に避難した。夜は体育館で過ごしたが、余震のたびに天井の照明が大きく揺れて、怖かったそうだ。

翌日に家に帰り、家の片付けをした。地震の影響で

ガスや電気が止まっていたが、家にあった食材をカセットコンロで調理して、食事をとることができた。しばらくお風呂は使えなかったので、カセットコンロで沸かしたお湯でタオルをぬらして体を拭いた。

カセットコンロは冬のお鍋に使うイメージだった。震災の話聞いてライフラインが止まった場合に、カセットコンロはとても役に立つことを知った。

私の家では震災の教訓を踏まえて、ペットボトルの水や日持ちする食べ物を買って置きしている。生活用水として使えるようにお風呂

の水は次にお湯を張るまでためているほか、カセットコンロのボンベも多めに用意している。

研修に参加するに当たって二つの目標がある。一つは備えの知識を身に付けることだ。全国で自然災害が多発しているため、以前から防災や減災に取り組みたいと思っていたが、どうすれば良いのか分からず、結局何もして来なかった。研修で学んだことを家族に共有したり、家庭の備えに生かしたりして、災害発生時に少しでも落ち着いて行動できるようにになりたい。

カセットコンロは災害発生時も重宝

カセットボンベを備蓄しておこう

ガス、電気が止まっても使えるね



イラスト さとうあけみ

もう一つは被災者から被害や苦勞の話聞き、発信することだ。昨年度の防災記者の記事を読み、同年代の人が自分の言葉で防災を伝えていることに刺激を受けた。今度は私が同年代が防災に関心を持つような記事や、下の世代に震災の教訓を伝える記事を書き、将来の備えにつなげたい。